

(有)西川総合建設の明治から現在までの工法の変化

明治～昭和中期 『太丸角材工法』



丸太と柱を縛り持ち上げる『丸太工法』を行っていました。壁に穴を開け結束線で絞めて固定します。建物の傷みや補修箇所が多く、曳家工事自体が安く済んでも建築工事全体の費用は高額になっていました。現在ではほとんど見かける事もなくなりました。

昭和中期～昭和50年頃 『レーン工法・SRM工法』



資材が鉄骨・レーンに変わり長いスパンを飛ばす事も可能になり、柱を結束せず土台から持ち上げる様になりました。コロもレーンに合う形に変わり結束をボルトで行う事で『丸太角材工法』から施工精度が著しく向上しました。

ただし据付時にレーンを抜くための基礎の開口を多く設けなければならず、配筋も途切れ途切れで基礎の剛性が弱くなります。現在の耐震などで言われている、安全基準を満たせないなど工法に難点があります。機械化が進みハンドジャッキで施工する業者は少なくなりました。

昭和後期～現在 『スクエアフレーム工法』



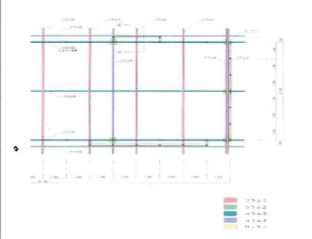
基礎の剛性を失わない様、また建物の傷みを少なくするため油圧機器の精度・性能を上げ改良された工法です。材料を軽量化し施工効率も良くなりました。基礎パッキン厚の空間があれば建物を据付可能になり、無駄な開口を作らずに済むため基礎の剛性を損ないません。また独自の油圧ユニットにより施工能力が向上し、建物を基礎ごと移動させる事も可能になりました。

”**一步先行く技術**”で他工法は追いつけない**技術開発力!**

お客様のご要望があれば出来る事は全て当社で対応させていただきます。何なりとご相談ください。



石積を同時に移動可能！
技術進歩で旧来工法では不可能なものが可能に！



物件毎に計画設計し、現場の精度を高めます。職人の”勘”では施工しません。



寺社仏閣・重要文化財の曳家工事は傷めない事が重要です。



古民家再生
基礎を新設する為の移動は必要ありません。その場で作り替えます。

私たちの誇り 安心できる曳家工事であること

メディア掲載<新聞>

滋賀夕刊 「引っぱって、お引越し 米原高校の武道場、150メートル」



中日新聞 「家丸ごと“引っ越し”」



メディア掲載<TV>

『新ニッポン探検隊』曳家【ひきや】の特集



NHK茨城編



滋賀夕刊 「土蔵 市道“歩く” 敦賀で曳家作業」



滋賀中日 「母校のシンボルいつまでも…」 母校のシンボル いつまでも…



フジテレビ「スーパーニュース」 液状化 地盤沈下

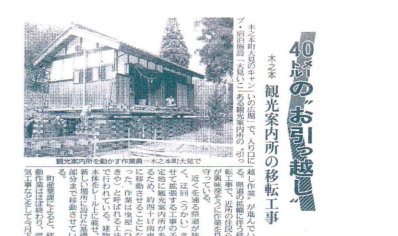


液状化による地盤沈下対策として当社の施工現場と工法、職人の技をご紹介します

フジテレビ「スーパーニュース」



中日新聞 「40メートルの“お引っ越し” 木之本 観光案内所の移転工事」



中日新聞びわこ版 「練習の基礎できた 曳家工事の米原高 武道場、 130メートル移動」



NHK目撃!日本列島「取り戻せ夢の街」



TBSニュースキャスター



BBC キラりん滋賀

